

## (財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第12号 2007年3月

事務所：〒840-0054 佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL/FAX 0952-28-2077

e-mail [unicef-saga@ams.odn.ne.jp](mailto:unicef-saga@ams.odn.ne.jp)

URL <http://www2.odn.jp/unicef-saga/>

\$\$\$ 支部通信はホームページでもご覧いただけます

ユニセフ写真展「アグネス・チャンが見た子どもたち」を開催しました



### 第一部 ~ 危機にさらされる子どもたち ~

2003年6月イラク視察記録

2004年4月モルドバ視察記録

### 第二部 ~ 忘れられた子どもたち ~

2005年4月スーダン・ダルフール地方視察記録

◎ 2月24日から3月6日まで、佐賀市立図書館2階ロビーギャラリーにおいて、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使がイラク・モルドバ・スーダン/ダルフール地方で出会った子どもたちの姿を、写真パネルでご覧いただきました。

約900名のみなさまにご来場いただき、様々な困難な状況のなかで生きる子どもたちの現状に関心を持っていただきました。中には「新聞で写真展のことを知ったので来ました。」と、唐津市から来られた方もいらっしゃいました。



保育園児も見学に訪れました。スカーフを被った女性の写真に「○○ちゃんのお母さん(留学生さん)みたい」とか、自分たちと同じくらいの子どもの「○○ちゃんみたい」「かわいそう」など言いながらボランティアの説明を熱心に聞いていました。



第二部～忘れられた子どもたち～：スーダン/ダルフール地方のコーナーでは、NHK：BSドキュメンタリー「忘れられた戦場～アグネス・チャン、スーダンからの報告～」の録画を熱心にご覧になる方も多かったです。

「忘れられた戦場」のビデオを見て、写真の内容がよく理解できました。私の全く知らないことでした。ありがとうございました。(アンケートより)



会期中には延べ **56** 人のボランティアさんが、来場者への対応、ユニセフグッズの頒布、会場管理などにあたってくださいました。「支部のホームページで見たから」と佐世保市から駆けつけてくださった方や、ALTの方もボランティアとして協力してくださいました。たくさんの方のご支援、ありがとうございました。

**アンケートの結果** 2007年2月24日～3月6日（開催期間9日間）アンケートに応じてくださった方は入場者の7%でした。

☆ 写真展の内容はいかがでしたか？

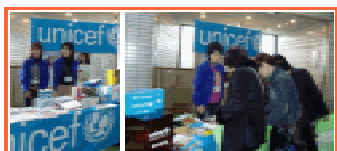
1. よかった 84%      2. どちらともいえない 16%      3. よくなかった 0

☆ どんなどころが？

- ・ 現実に起こっているが、身近でない為、実感がないのが感想。壁の絵とかはリアルすぎて実際に身につまされる思いです。何の罪もないのに生きる権利さえつぶされてしまった。
- ・ スーダンの状況を知らなかったので知ることができてよかった反面、民族紛争の根深さに無力感を感じました。
- ・ いま、日本では戦争という厳しい出来事を忘れてしまっている人も少なくないと思います。しかし、世界の裏側では同じ人間が苦しんでいるのが現状だということを改めて知りました。私自身も世界の子どもたちに協力できることをして少しでも役に立てれば良いなと思いました。
- ・ モルドバの人身売買についてはほとんど知らなかったのが驚きました。もっと情報があればよりよかったと思います。自分でも調べてみます。
- ・ 貧しく厳しい環境におかれている子どもたちがいることは知っていましたが、改めて何がそのような状況を引き起こしているのか、どのような支援が必要なのかを考えました。
- ・ ユニセフに参加することは、世界の現在の状況をリアルタイムで知ることのできる最高の機会です。今、自分が何をすべきか、何が必要なのか考えさせられました。現状は目を覆いたくなるくらいの悲惨さですが、そこから目をそらさずに多くの人たちにこの現状を伝えていくことは重要なことです。この写真展に来て一人でも「何かをしたい」と思った方がいればすばらしいことだと思います。

★ ボランティアさんの感想

・ 今回、初めてボランティアに参加させていただき自分の考えが定まりました。また、忘れかけていたボランティア「人を助けたい！」という情熱がわいてきました。本当に参加してよかったと思います。いつか必ず自分の目で世界の状況を見てきたいと思います。ありがとうございました。



☆ 2月25日の佐賀新聞 **Begin** 講座「アグネス・チャン講演会」会場で写真展の広報やグッズ頒布、募金活動をしました。写真展にも「Begin講座で知ったから」と多くの方が来てくださいました。

# 世界の子どもたちは、今

## <スーダン・ダルフル>

## ～混乱の中に灯る希望の光～

【2007年3月14日ニューヨーク発】



© UNICEF video

ユニセフの公式訪問を歓迎する  
避難民キャンプの子どもたち



現地状況を視察するためスーダン・ダルフル地方を訪れていたユニセフ・スーダン事務所の代表テッド・チャイバン氏が、全日程を終了し、オフィスに戻りました。チャイバン氏は現地訪問中に避難民キャンプでの生活を余儀なくされている女性や子どものもとを訪れ、その現状を目の当たりにしてきました。彼らは、依然として続く激しい武力衝突のため、家に帰ることができずにいるのです。

チャイバン氏の報告によると、キャンプは5万人から10万人の避難民であふれかえっているとのこと。そのため、住居や食事、水、そして基礎的治療を必要とする避難民を収容できる場所を新たに探さなければならないと訴えました。

「この状況の解決に必要なのは、和平プロセスを再開させることです」とチャイバン氏は話します。「国際連合やアフリカ連合が力を合わせ、紛争当事者を巻き込んで政治的解決策を模索しています。避難民をこれ以上収容できない状況にあるため、このプロセスがこの時期に実現したことはとても重要なことなのです」



© UNICEF video

視察のため武装グループの支配下にある  
ダルフル南部、ジャバル・マラを訪れた  
ユニセフ・スーダン事務所代表  
テッド・チャイバン氏

### 人道支援関係者にとっての挑戦

「ダルフルでの人道支援活動は、困難の連続です」とチャイバン氏は話します。「そんな状況の中で、私たちは現状の維持に努めてきました。栄養状態を改善し、死亡率を引き下げてきたのです。また、多くの子どもに予防接種を実施し、キャンプ内に設置した学校に子どもを通わせることができました。これらのことを私たちは誇りに思うべきです」

一部のキャンプでは、最近、安全上の理由から人道支援活動が停止されていました。「避難民キャンプでの生活は、恐怖におびえながらの毎日です。特に夜はおびえながら過ごし、日中は、水を汲んだり薪を集めるなど、生き延びるために必要なことで時間を費やしています。家族は常に一緒にいるようにしています」とチャイバン氏は訴えます。

しかし、キャンプでの生活が落ち着くにつれ、人々は無力感を味わいたくないと考え始めています。自分たちの、そして子どもたちの生活をより良いものにしたいと願うようになりました。ですが、これもまた、一筋縄ではいかないことなのです。

## 子どもへの教育を維持しよう

避難民キャンプの中で子どもたちに教育を提供しようという考えは、食べ物や水、住居を手に入れることが困難な状況においては「ぜいたくなこと」と思われるかもしれませんが、しかし、ユニセフは、ダルフルで住む場所を追われた若者の「悲劇」をひとつの「きっかけ」に変えようと努めています。

「かつてないほど一紛争が起こる前よりも一多くの子どもたちが学校に通っています」とチャイバン氏は語ります。ユニセフやパートナーの努力を通じ、学校に通う多くの子どもたちは、あと少しで初等教育を終えようとしています。金属の骨組みにワラをかぶせて作られた学校ですが、それでも学校としての機能は十分果たしています。現在、多くの子どもたちが中等学校に進学するための入学試験を心待ちにしています。

## 南スーダンのユニークな機会

ダルフルでの出来事はメディアでも大きく取り上げられ、紛争や避難民キャンプの問題は依然として残っているものの、南スーダンにも注目すべき進展が見られるとチャイバン氏は語ります。スーダンでは、北部と南部の間で、20年以上というアフリカ史上もっとも長い期間にわたって紛争が続いていました。これらの進展は、この紛争について2005年1月に北部と南部の間で交わされた和平協定の締結後に見られているものです。

「スーダン北部で避難生活を送っていた家族が故郷の家に帰還するようすを目にしました。背中に荷物を背負って、かつて暮らしていた村々に帰ってくる人たち……。まるで家族の再会の場面を見ているようでした。なんて美しい光景なのでしょう。これは和平プロセスがあるからこそ実現したことであり、私たちもこの物語のひとつなのです」

「多くの人々が、20年もの間紛争にさいなまれ、50年もの間、貧困に苦しんできました。その人々に対して、いま初めて、こう語りかけるチャンスがやってきたのです。『苦しむのはもう十分』だと。私たちはこれから、より良い未来に向かって歩んでいくのです」

【資料提供：(財)日本ユニセフ協会】

## Let ' s unicef

### 佐賀市立本庄公民館 館長 角田研三さん（佐賀市）

平成11年、佐賀県小中学校校長会の仕事の関係でユニセフ活動とのご縁が生まれました。その時に開発途上国における子どもたちの実態について勉強をさせていただきました。

平成13年に佐賀市の本庄公民館長に就任しました。そこで、ユニセフで以前に学習したことを公民館活動の中で活かす方法を考え、翌14年にユニセフ協会佐賀友の会の皆さんが学校等に招聘されたときに、すぐ出前講座ができるように本庄公民館でリハーサルを兼ねた授業をお願いしました。その間、出前講座「ユニセフ・デー」に参加した子どもたちは、募金活動や「かたりべの里：本庄祭り」でのユニセフグッズ頒布・ミニバザー等に参加し見聞を広めることができました。

その後、色々な事情があつて現在は私の個人的な協力にとどまっていますが、ユニセフ活動が青少年たちに広く理解され、その精神が彼らに伝わり、国際親善に結びつくことを祈念してやみません。



# かつどう ほうこく

- ◎ 1月13日(土) 財日本ユニセフ協会第6回理事会 (佐賀新聞社会議室)  
2006年度事業報告・決算の見込みの件、2007年度事業計画・予算案の件、支部役員に関する件について協議しました。ユニセフ支援の輪を拓げるために、会員30名増をめざす数値目標が決められました。
- ◎ 2月5日(月) 大溝小学校募金贈呈式 (三潯郡大木町立大溝小学校)  
6年生の皆さんは2学期の総合的学習の時間に「何かができる…私たちにできるボランティア」というテーマで学習しました。その中で世界の子どもたちの様々な現状について調べました。学習の後、6年生が中心となり全校の皆さんに、ユニセフ募金や書損じハガキ集めなどを呼びかけたくさんの協力をしていただきました。全校朝会で、6年生の代表が活動の報告をし、佐賀県支部への手渡しがありました。
- ◎ 2月7日(水) 高島分校 ユニセフ出前授業・募金贈呈式 (長崎県佐世保市相浦小学校高島分校)



高島分校の14人の皆さんは、総合的な学習の時間に「かきの養殖を体験しよう」というテーマで学習をしました。昨年の4月に初栄丸水産の方や保護者の方々の協力を得て、帆立貝にかきの種付けをしました。それをかき筏に付けて九十九島の海で養殖しました。11月に大きくなったかきを収穫して「相浦産業まつり」で販売し、その益金を「世界の子どもたちのために使ってください。」と託されました。

ユニセフ授業では「水」「栄養」「働かされる子どもたち」をテーマに学習しました。ORS(経口補水塩)について、スペシャルドリンク作り、水がめを使っての水運び体験、ビタミンAの話、カカオ農園で働かされる子どもたちのこと等について学習しました。

## 学習を終えて

今日は、遠く佐賀県から高島分校に来てくださってありがとうございました。今まで私たちは、ユニセフについて言葉はなんとなく知っていたけど、どんな活動をしているのかはくわしく知りませんでした。でも今日、先生方が教えてくださったのでよく分かりました。

安全な水が飲めないために病気になり、世界では3秒に1人の割合で子どもが死んでいると聞いてびっくりしました。日本ではそんなに死なないからです。そんな子どもたちも1つ3円のビタミンAのカプセルやORSがあれば命が助かることが分かりました。

そして、世界には同級生くらいの子もなのに、学校に行けなかったり、朝から夜まで働かなければならなかったりと、いろんな状況でも負けずにがんばっている子どもたちがいることが分かりました。

私は暖かい家に住み、お父さんお母さんと一緒に暮らせて幸せなんだと気づきました。なんだか今まで言っていたことがわがままだったような気がします。ユニセフはそんな子どもたちを助ける活動をしてくれて

いるのですね。さっき、私たちが寄付したお金をその子たちのために使ってあげてください。

かきの販売のとき、なかなか売りきれなくて大声を出して「安いですよ。買ってください。」と何度も言いながら公園の中を歩きました。がんばって私たちが売り上げたお金を世界の困っている子どもたちのために役立ててもらえるので、とてもうれしいです。私たちのお金で世界の友だちのことを助けてください。心と体を私たちのように元気にしてあげてください。みんなの夢をかなえてあげてください。お願いします。私も今からもっと楽しい気持ちで学校に行こうと思います。(6年生)

◎ 2月14日(水) 江北中学校1年生 ユニセフ出前授業 (杵島郡江北町立江北中学校にて)

1年生(103名)の皆さんは総合的な学習の時間『ビッキータイム』において、「平和について考える」という活動名で学習を進めています。出前授業では、「紛争と子どもたち、そしてユニセフ」というテーマで学習しました。子どもと武力紛争、元少年兵の話、スーダン・ダルフル紛争の話などをもとにして、この地球上で自分たちと同じ年齢の子どもたちが、今も、想像もできないような混乱の中にあるということについて話し合いました。

◎ 2月22日(木) 諸富北小学校募金贈呈式 (佐賀市立諸富北小学校)



6年生の皆さんはユニセフ出前授業の後、更に探究活動をして、学習発表会で地域の方々に世界の子どもの様子を発表しました。同じくユニセフ出前授業で「世界の子どものいのち」について学習した4年生の皆さんも一緒に、地域の方々にユニセフ支援を呼びかけました。

ボランティア集会で、子どもたちや地域の皆さんの温かい思いでいっぱい募金や書損じはがき、使用済み切手等をいただきました。子どもたちは、**ORS**(経口補水塩)や**ビタミンA**の安さに驚き、自分たちの行動がたくさんの世界の子どもたちへの支援につながることを喜んでいました。

◎ 2月24日(土)～3月6日(火) ユニセフ写真展「アグネス・チャンが見た子どもたち」(佐賀市立図書館)

◎ 3月12日(月) JA佐賀県女性部「愛の募金」贈呈式 (佐賀新聞社)



**JA**佐賀県女性組織協議会では、昭和**54**年の国際児童年を契機に「愛の募金」活動に取り組まれています。「愛の募金」活動は今年度で**28**年になり、今年も「世界の子どもの幸せのために役立ててください。」と**157,197**円の募金を日本ユニセフ協会佐賀県支部の中尾会長に手渡されました。

◎ 3月27日(火) 北部児童センター募金贈呈式(予定) (佐賀市大和町北部児童センター)

☆ **2006**年度も各方面からの多くのご支援・ご協力をいただき、様々な場でのユニセフ広報活動・募金活動等、県支部として充実した活動をする事ができましたことを深く感謝申し上げます。

**2007**年度も更にユニセフ支援の輪が広がりますよう、運営委員一同頑張りたいと思っています。よろしく申し上げます。

## ご支援・ご協力ありがとうございました

カイセイ薬局伊万里駅前店様 相浦小学校高島分校様 大溝小学校様 諸富北小学校様  
佐賀商業高校起業家教育選択グループ様 JA 佐賀県女性組織協議会様 山小屋ラーメン様  
雇用能力開発機構佐賀センター様 佐賀市国際交流協会様 有田ドイツ学教室様 (有)リフレイン様  
九電工労組佐賀支部様 長崎ララコープ様 佐賀県家庭科連盟様 日新公民館様 黒川カイセイ薬局様  
本庄公民館様 ワークステーション SAGA 様 野中商事様 さが市民活動プラザ様 (株)ジャックス様  
梅津歯科様 佐賀大学スーパーネット様 カイセイ薬局荒江店様 佐賀リハビリテーション病院様  
日之出鋼管株式会社様 (2007年1月 日～3月17日)

\*様々な形でのご支援ご協力を感謝申し上げます。個人のみなさまからもたくさんのご支援を頂いていますが、平成17年4月1日からの「個人情報の保護に関する法律」施行に伴い、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。

## ユニセフ

## チャリティーバザーのお知らせ



©UNICEF/IDSA10/Purnomo

「わが子をおもう母の気持ちを世界の子どもたちにも届けたい…」と、今年も母の日の前日に下記の通り開催します。

- ◎ 日 時：5月12日(土) 2時～3時
- ◎ 会 場：佐賀玉屋デパート南館西側アーケード
- ◎ テーマ：「すべての子どもたちに予防接種を！」

ユニセフは「予防接種」の重要性を何十年も訴え続けています。実際に年間1億人以上の子どもたちへの予防接種を実現させています。

はしか、ポリオ、破傷風、百日咳、ジフテリア、結核 いまや世界の4分の3の子どもたちは、予防接種によって、こうした病気から守られています。しかし、いまだに年間140万人もの5歳未満の子どもたちが予防接種を受けていたら防げたはずの病気です。

「守れるはずの命を守る」ために、皆様のご支援をよろしく願います。

### 1. 物品等、バザー品ご提供のお願い

ご家庭で不要の到来品(新品のもの・その他・食品は賞味期限以内のもの)等がありましたらご提供ください。よろしくお願いいたします。品物の受け渡しについては、ご連絡いただいてからご相談申し上げます。

### 2. ボランティアのお願い

① 5月12日(土)午前中、事務所での仕分け・値付け・搬出等の仕事

② 5月12日(土)午後、佐賀玉屋デパートのバザー会場で販売の仕事

\* 上記について、ご協力いただける方は事務所までご連絡ください。

\* TEL&FAX 0952-28-2077

E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

☆ 新年度が始まります。日本ユニセフ協会会員として、また、ボランティアとして、ご自分のライフスタイルに合った形で、世界の子どもたちの笑顔のためにご協力いただけませんか？ 一緒に楽しく活動しましょう！

## 会員募集

会員として、世界の子どもたちを応援してください。

会員としてご登録いただきますと、会員証を発行し、機関紙「ユニセフ・ニュース」（年4回発行）をお届けします。ユニセフが世界で行っている支援活動の報告や、開発途上国の子どもたちの状況など、最新情報をご覧いただけます。また、佐賀県支部のイベント情報もお知らせします。

会員の種類・会費・会員期間

会員の種類	対象	年会費	会員期間
一般会員	個人の方	5,000 円	入会月～ 1 年間
学生会員	学生の方	2,000 円	入会月～ 1 年間
団体会員	団体・法人企業	100,000 円	4 月～ 翌年 3 月

(お問い合わせは事務局まで)



© UNICEF Lebanon/2007/Debbas

## ボランティア募集

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部では、ボランティアを募集しています。地域でのユニセフ活動を広げていくために、世界の子どもたちやユニセフ、ボランティア活動に関心をお持ちの方はお気軽に事務局までお問い合わせください。

### ボランティアの内容

1. 事務所での仕事会への参加 (月・火・木 10:00～15:00)  
ユニセフグッズの頒布にかかる準備、整理など  
パソコン作業(主にワード、エクセルでの作業)  
機関紙やチラシの編集、印刷、発送作業  
書損じはがき、使用済み切手、使用済みインクカートリッジ等の回収&整理
2. 学習講師  
学校等への出前授業を担当(事前に勉強会をいたします)
3. イベント時のお手伝いや車の提供など
4. 使用済み切手の切り取り整理作業(事務所またはご自宅で)
5. その他(「これをしたい！」というのをご提案ください)